

がん登録実務者研修会 in 愛知

がん登録担当者研修会報告

KANEMURA Seiki

金村 政輝

宮城県立がんセンター研究所 / JACR 理事



今回の研修会は、「がん登録実務者・行政担当者が知っておきたい統計解析のポイント」というテーマで、学術集会初日の午前中に開催され、265名が参加しました。

ファシリテーターの大木いずみ氏（埼玉県立大学）と田中里奈氏（弘前大学）から研修会の企画についての説明があり、全国がん登録情報活用編に入りました。金村から都道府県がん登録室における集計の意義と必要性を説明しました。佐藤雅子氏（秋田県総合保健事業団）は、秋田県のデータを使った集計の実際について、利用手続き、データの選択、加工、集計作業、グラフの選択、見せ方の工夫について説明しました。田中氏は、公表されている全国がん登録データと NDB オープンデータを使い、今後、罹患者のピーク年齢の高齢化が進み、医療需要が急性期から慢性期へシフトすることを示し、地域の課題を明らかにするため、各県での集計が重要であることを指摘しました。

続いて、院内がん登録情報活用編では、松本吉史氏（大

阪医科薬科大学病院）が公開情報の活用方法と自施設のがん登録情報からの対象症例の抽出と集計の概要について説明しました。その後、大塚理可氏（岡山大学病院）と神谷里佳氏（公立西知多総合病院）が大学病院と一般病院それぞれの立場から高齢者に対するがん治療をテーマに、大腸がんを例にした集計結果について講演しました。大塚氏は、県内外からの患者が受診する大学病院において、高齢患者にも手術が行われていること、一方で、術後 stage III の症例では術後化学療法の施行率は高齢者では減少していることを説明しました。神谷氏は、患者の多くが知多半島医療圏の患者であり、高齢患者では経過観察となる症例が多いものの、病期別では積極的な治療が行われており、地域の基幹病院・がん診療連携拠点病院としての役割を果たしていることを説明しました。

今後、自地域・自施設を対象として様々な集計が行われることを期待しています。

実務で Go!



ISA Nana

伊佐 奈々

琉球大学病院がんセンター



日本がん登録協議会第34回学術集会 愛知大会のプログラムの一環として、学術大会 1 日目（2025 年 6 月 5 日）に『がん登録実務者情報交換会 実務で Go!』を開催しました。

私は、初めて運営担当として参加しました。

今回の「実務で Go!」は、123 名（ファシリテーター 22 名含む）という多くの方に参加していただきました。今年のテーマは、①登録実務（Case Finding・運用）、②統計解析、③集約（全国がん登録）、④運営（研修会、会議など）、⑤報告書、⑥人材育成の 6 つで構成し、15 グループに分かれて交流会を行いました。ファシリテーターの皆さんのおかげもあり、自己紹介の時点から実務者同士の会話は非

常に盛り上がり、和気あいあいとした雰囲気です。グループで日頃の悩みごとを「そうだよなー!」と共有したり、好事例を必死にメモしたり、交流会後も盛り上がりや冷めやらぬまま会場を後にする姿が印象的でした。

交流会後のアンケートでは、95% が「満足」および「また参加したい」とあり、大変好評を得ました。また、「実務の経験なし」「1 年未満」「1～3 年」などの実務経験が浅い方も多く参加してくれており、経験年数や役職にとらわれることなく、お互い楽しく交流し、学び合うことができました。

一部ではありますが、以下の意見や感想が寄せられました。

・登録室で同じ業務をしている職員

がいないため、他県の取り組みや課題を共有でき、また名刺交換ができて良かった。

・様々な施設の現状や課題を知ることができ共感できたことは、励みになった。

・はじめての参加だったが、他県の実務者の方と交流できて有意義な時間となった。

・グループのローテーションがあるのとより多くの方と話せるので検討してほしい。

アンケート結果でも好意的な意見が多く、当初の目的をある程度達成することができました。今度も、業務の情報や悩みを共有できる交流の場である「実務で Go!」に是非参加していただきたいと思います。